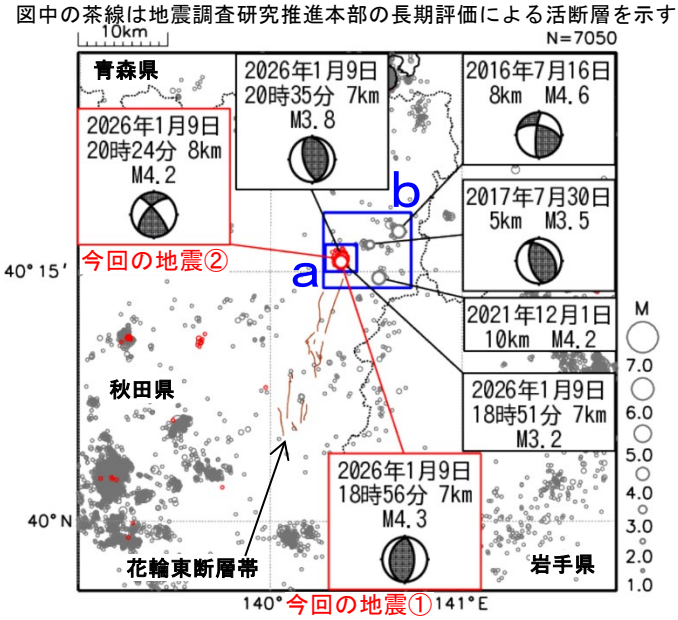
１月９日　秋田県内陸北部の地震

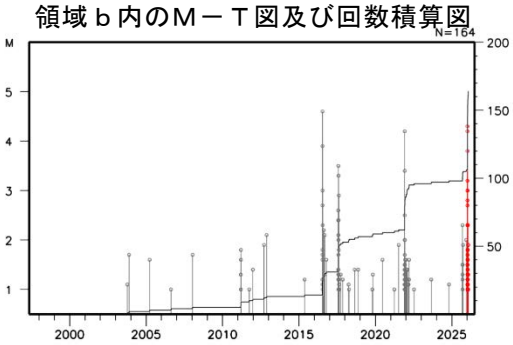
震央分布図
（1997年10月１日～2026年１月31日、
深さ０～30km、M≧1.0）
○1997年10月１日～2025年12月31日　○2026年１月１日以降
図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。



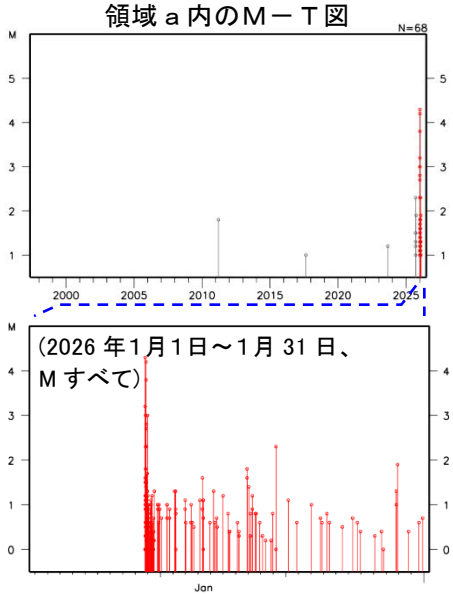
2026年１月９日18時56分に秋田県内陸北部の深さ７kmでM4.3の地震（図中①、最大震度４）が発生した。この地震は発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。同日20時24分にほぼ同じ場所の深さ８kmでM4.2の地震（図中②、最大震度４）が発生した。この地震は発震機構が東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。これらの地震は地殻内で発生した。これらの地震の震央の近傍（領域ａ）では、９日18時51分にM3.2の地震（最大震度３）が発生して以降地震活動が活発となり、同日24時までに震度１以上を観測する地震が８回（震度４：２回、震度３：２回、震度２：２回、震度１：２回）発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域ｂ）では、2016年７月16日にM4.6の地震（最大震度３）が発生するなど、M4.0以上の地震が時々発生している。

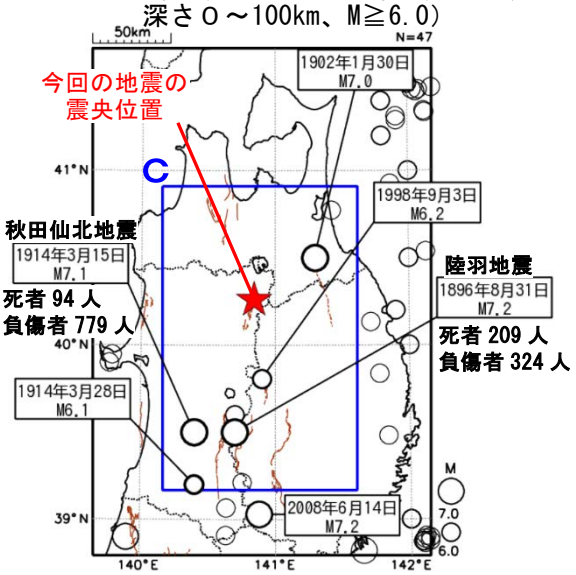
領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



領域ａ内のＭ－Ｔ図

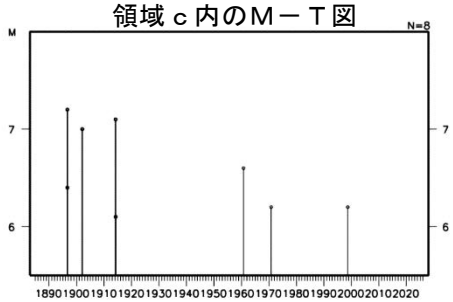


震央分布図
（1885年１月１日～2026年１月31日、
深さ０～100km、M≧6.0）



1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M6.0以上の地震が時々発生している。1896年８月31日には「陸羽地震」（M7.2）が発生し、死者209人などの被害が生じた。また、1914年３月15日には秋田仙北地震（M7.1、強首（こわくび）地震とも呼ばれる）が発生し、死者94人などの被害が生じた（被害はいずれも「日本被害地震総覧」による）。

領域ｃ内のＭ－Ｔ図



図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982,1985)による。
被害は「日本被害地震総覧」による。

宇津徳治(1982)：日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年,震研彙報,56,401-463.
宇津徳治(1985)：日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年（訂正と追加）,震研彙報,60,639-642.
茅野一郎・宇津徳治(2001)：日本の主な地震の表,「地震の事典」第２版,朝倉書店,657pp.